

1年間で学んだこと 高齢者とその家族を支えるまちづくり

活動先：NPO 法人 ベタニアホーム
クラス：村上 徹也 先生

今回サービスラーニングの活動で、私は成岩にある認知症対応型の通所介護「ベタニアホーム」で活動させていただいた。認知症の方は日によって、または時間によって態度や様子が違い、変化が激しいということを知った。だから、午前中とても楽しそうにしている、午後になると突然機嫌が悪くなり対応に戸惑うことも多々あった。また、人によって介護度や性格、人生経験なども異なるためコミュニケーションのとり方もそれぞれ違ってとても難しいと感じた。さらに年代が全く違うため話の話題を考えるのも大変だった。しかし、利用者の方みなさんに共通していたのは、どの方も昔の話を聞いたり、昔の歌を歌ったりすれば楽しそうな顔をされていたことである。数分前に行ったことを忘れてしまっても、子どもの頃や働いていた頃の事は鮮明に覚えていて、いろいろ質問すると嬉しそうに答えてくださった。

ベタニアホームでは活動の中で「音楽療法」や「回想法」を取り入れていて、認知症の利用者に合わせた支援を行っていた。これは家で普通に過ごしている間では、なかなかすることが出来ないのもとても重要な取り組みだと感じた。

今回の活動ではベタニアホームの1日の業務の流れにそって利用者の方と一緒に過ごし、学ばせていただいた。その中で自分たちが計画してレクリエーションの時間にお菓子作りやうちわ作り、ペインティングなど行った。お菓子作りでは女性の方は昔家事を行っていたこともあってとても慣れた手つきで調理されていて、逆に私が教えてもらうこともあった。うちわ作りではまず貼り絵をしたのだが、人によって色が違ったり表現する方法が違ったりしてとても個性のでるうちわを作ることができた。

そして、今回の6日間の活動の中で最も印象的だったのは家までへの送迎である。利用者を家の玄関から送迎の車まで移動させるほんの何分かの時間の中でも、家での状況や施設での様子など利用者の家族と職員の方がお互いに情報を交換していた。何気ないやりとりのようだが、24時間利用者のことを気にかけて介護を行っている家族にとって少しでも話を聞いてもらえる場というのは非常に重要だと感じた。

私が活動に行った時の実際にあつた例では、常に車椅子で介護を必要とするAさんの家族内では主にお嫁さんが介護を行っていた。話を聞いていると、排泄の介護のことで悩んでおられ、職員のアドバイスを受けておむつを交換する回数を減らして問題が解決し、少し楽になったという出来事があった。その他にも、利用者のけがや症状についてどのように対応すればよいか元看護師の職員に相談したり、家で起きた出来事について楽しそうに話される家族の方もいらした。家族内の介護については家族内でしかわからないけど、少しでも視野を外へ向けて考えることで違った考えや共感できる考えが発見できるかもしれない。小さな交流かもしれないが地域社会の中でこのような交流はとても重要であ

ると感じた。介護の問題を家族だけで考えていくのは負担が大きく辛いときもあると思う。在宅で介護を行っていくためにはやはり地域との関わりはとても大切である。

また、自分の暮らしてきた地域で生活し続けることができるということは本人にとっても嬉しいことだし、家族内だけでは関わることの出来ない同世代の人たちとの関わりは同じような悩みや考えを共有でき、より充実した生活を送ることが出来ると思う。また、活動中には日によっては近くの図書館や博物館などの公共施設へ、散歩がてら行くことがあった。その時に小さい子どもたちを見て笑顔になる利用者もいれば、博物館の展示物を見て興味も持ちながら楽しそうにお話されるのを見て、外に出るということはとても大切であると感じた。少し外に出ればあらゆる世代の人が歩いていて、様々な発見も出来る。職員の方が、地域の人と交流をしてほめられたりすれば、それが利用者の方の自信につながると言っておられた。

また、若い人たちが高齢者の方から学ぶこともたくさんあると思う。実際私は活動中に様々な利用者の方たちとたくさん会話をしてコミュニケーションをとってきたが、自分たちの生まれ育った地域について、昔よくした遊び、働いていた職業などそれぞれの人の人生歴をたくさん聞くことが出来た。私の知らない昔の話を聞くことができて私自身とても楽しんで会話をしていた。介護といえば、どうしても「やってあげる」という考え方が多いが、私たちは高齢者に与える側でもあるけど、同時に与えられる側でもあると改めて実感した。

しかし、私は授業の一環として活動したからそのような経験が出来たが、実際に地域の高齢者の方と関わる機会があるかと言ったら、なかなかそのような機会はないように思う。だからこそ、NPOのような組織が社会に働きかけることによって地域の住民同士が交流できる機会を作っていくことがとても重要なのだと感じた。しかし、機会があるだけでは意味がないので住民が地域参加、社会参加でいるような工夫が必要だと思う。強制的などではなく積極的に地域に参加できて、様々な人と関わってお互いに支えあっていけるのが理想の地域社会なのだと考える。地域のあらゆるニーズをもった人たちが、少しでもその問題を解決できたり、気持ちが楽になったりすることで良い社会づくりにつなげていくことが出来る。今回の活動中に、利用者の家族と職員との関わり、職員と公共施設との関わりなどを見て当事者の力だけでなく本人と地域をつなげるためのNPOのような組織の存在はとても重要だと感じた。私たち学生にもボランティア活動や地域への呼びかけ・宣伝など出来ることはたくさんある。地域の高齢者を支えていくためには私たちのような若者の力がとても重要となってくる。